

# 令和7年度 学力向上のための重点プラン【小学校】 新宿区立花園小学校

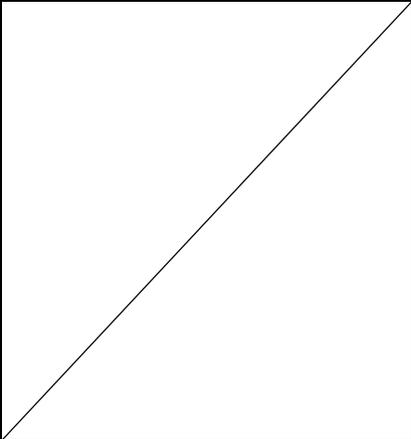
■ 学校の共通目標

【HP公開用・様式1・7年11月7日更新】

授業作り	重 点	○タブレット端末を活用した授業づくりの工夫及びデジタルドリルの活用を行う。
環境作り		○デジタルドリルや東京ベーシック・ドリルを活用し、基礎・基本の定着のための指導方法の工夫を図る。
		○授業のユニバーサルデザイン化を図り、主体的・対話的で深い学びを推進する。
		○タブレット端末等も活用して、毎日の家庭学習を定着させる。
		○図書環境を整え、読書指導を通して語彙力の向上を目指す。

■ 学年の取組について

学 年	学習状況の分析 (各種調査から)	学校が取り組む目標 (日常の授業の様子から)	目標達成のための取組
1 学 年		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 基本的な学習内容の定着</li> <li>・ 国語・算数の文章読解力の育成</li> <li>・ 意欲的に授業に取り組む児童の育成</li> <li>・ 進んで読書に取り組む児童の育成</li> </ul>	<ol style="list-style-type: none"> <li>① ひらがな・カタカナ・漢字の繰り返し練習</li> <li>② 数の概念の育成と、計算練習の重点的な取組</li> <li>③ 児童が意欲をもてるような課題の提示</li> <li>④ デジタルドリルの活用(主に算数)</li> <li>⑤ 図書館司書との連携</li> </ol>
2 学 年		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 漢字や計算などの基礎・基本の定着</li> <li>・ 国語・算数の文章読解力の育成</li> <li>・ 全員参加を目指した授業づくり</li> <li>・ 進んで話したり聞いたりする主体的態度の育成</li> </ul>	<ol style="list-style-type: none"> <li>① 漢字・計算の繰り返し学習</li> <li>② デジタルドリルの活用(主に算数)</li> <li>③ デジタル教材の活用</li> <li>④ ペア学習やグループ学習による話す・聞く力の定着</li> </ol>
3 学 年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 新宿区学力定着度調査の結果において、国語は区平均に届いていないので、基礎学力の定着が課題であることが分かる。</li> <li>・ 算数は、新宿区学力定着度調査の結果において、基礎は区平均を上回っているが、応用は区平均に届いていない。応用力を高めていくことが必要であることが分かる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 漢字や計算などの基礎・基本の定着</li> <li>・ 語彙力の増加、言葉のまとまりを理解する力の育成</li> <li>・ 既習事項を生かした国語・算数の文章読解力の育成</li> <li>・ 自分の考えを式・図・言葉を使って順を追って説明する党の思考・判断・表現力の育成</li> </ul>	<ol style="list-style-type: none"> <li>① 音読、漢字、計算の繰り返し学習</li> <li>② 新出漢字を使った文作り</li> <li>③ 国語辞典を使った意味調べ</li> <li>④ デジタルドリルの活用(主に算数・応用問題)</li> <li>⑤ ペア学習やグループ学習による話す・聞く力の定着</li> </ol>
4 学 年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 新宿区学力定着度調査の結果において、特に書くこと、読むことを求める問題への正答率が区平均を下回っているため課題がある。</li> <li>・ 算数は新宿区学力定着度調査の結果において、平均を上回っているため、引き続き学力を定着させていく必要がある。</li> <li>・ 「学びに向かう力等に関する意識調査」の結果において他教科に比べて国語に苦手意識がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 漢字や計算などの基礎・基本の定着</li> <li>・ 語彙力の増加、言葉のまとまりを理解する力の育成</li> <li>・ 既習事項を生かした国語・算数の文章読解力の育成、話す・書き表す等の、思考・判断・表現力の育成</li> </ul>	<ol style="list-style-type: none"> <li>① 音読、漢字・計算の繰り返し学習</li> <li>② 国語辞典を使った意味調べ</li> <li>③ デジタルドリルの活用(国語応用問題、東京ベーシック・ドリルの活用等)</li> <li>④ グループの話し合い、学び合いの場の設定</li> <li>⑤ 学習の振り返りによる自己表現・自己肯定感の向上</li> </ol>

<p>5 学 年</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新宿区学力定着度調査の結果において、国語、算数ともに区平均を下回っている。基礎・基本の定着が課題である。</li> <li>・国語では、書くこと、読むことは区平均を大きく下回っているため、そのことを意識しながら取り組ませる必要がある。</li> <li>・「学びに向かう力等に関する意識調査」の結果において他教科に比べて国語に苦手意識がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各教科の学習内容の基礎・基本の定着</li> <li>・語彙力の増加、既習事項を生かした国語・算数の文章読解力・表現力の育成</li> <li>・学習（特に割り算）に苦手意識がある児童の主眼的に取り組む態度、知識・技能の習得、自分の考えや意見を表現する力の育成</li> </ul>	<ol style="list-style-type: none"> <li>① 各教科の学習内容の繰り返し学習</li> <li>② 国語辞典を活用した意味調べ</li> <li>③ デジタルドリルやアプリの活用（応用問題、東京ベーシック・ドリルの活用等）</li> <li>④ グループでの話し合い活動の場の設定、授業導入時の既習事項の確認、学習後の振り返り場面の設定</li> <li>⑤ 理解を深めるスモールステップの学習展開・課題意識のある学習内容（既習事項）への継続的な取り組み</li> </ol>
<p>6 学 年</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新宿区学力定着度調査の結果において国語と算数は、基礎・応用ともに区平均よりも正答率がかなり下回っており、基礎・基本の定着が課題である。</li> <li>・新宿区学力定着度調査の結果において、特に書くこと、読むことを求める問題への正答率に課題があることが分かる。</li> <li>・「学びに向かう力等に関する意識調査」の結果において他教科に比べて国語・算数に苦手意識がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各教科の学習内容の基礎・基本の定着</li> <li>・語彙力の増加、既習事項を生かした国語・算数の文章読解力の表現力の育成</li> <li>・学習（特に分数、小数）に苦手意識がある児童の主眼的に取り組む態度、知識・技能の習得、自分の考えや意見を表現する力の育成</li> </ul>	<ol style="list-style-type: none"> <li>① 各教科の学習内容の繰り返し学習</li> <li>② 国語辞典を活用した意味調べ</li> <li>③ デジタルドリルやアプリの活用（応用問題、ベーシックドリルの活用等）</li> <li>④ グループ学習や一斉学習による、多面的・多角的な問題理解と問題解決の場の設定</li> <li>⑤ 自分らしい表現を用いた学習の振り返りによる自らの学習状況の把握の向上</li> <li>⑥ 理解を深めるスモールステップの学習展開・課題意識のある学習内容（既習事項）への継続的な取り組み</li> </ol>
<p>特 別 支 援</p>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・漢字や計算などの基礎・基本の定着</li> <li>・語彙力の増加</li> <li>・話し合い活動、児童同士の学び合いの場を設定。</li> <li>・社会的な自立を図る。</li> </ul>	<ol style="list-style-type: none"> <li>① 個別指導計画と個別支援計画による個に応じた指導の展開</li> <li>② 休みの日の出来事や自分の意見等を発表したり友達の意見を聞いたりする言語活動</li> <li>③ 週1回程度の話型をヒントにした話し合い活動</li> <li>④ タブレット端末のアプリやワークシートを使った個別最適な学習、家庭と連携したスモールステップによる既習事項の定着</li> </ol>

## 【中間評価】

中間評価	
○ 成果と▽ 課題	● ▼ 期末への方策等
<p>○デジタルドリルと紙のドリルを併用することで、解く問題数を確保し、繰り返し学習に取り組むことができた。また、各単元のまとめや復習で同様に取り組むことで、習熟につながった。</p> <p>○個の習熟度や進度に応じてデジタルドリルに取り組むことで意欲的に学習に取り組むことができた。</p> <p>○児童・生徒の学力向上を図るための調査や、新宿学力定着度調査、学びに向かう力等に関する意識調査の結果を分析し、学習に苦手意識を感じている児童や課題が多い学習内容への手立てを各学年で検討し実施することができた。</p> <p>例：他教科よりも国語に苦手意識や課題がある児童が多く、デジタルドリルの国語の問題などに取り組ませるようにした。</p> <p>○教材の提示方法を工夫する、学習のスマールステップ化によって、児童の学習意欲を高め、学力向上につなげることができた。</p> <p>▽児童にとってどのような授業が分かりやすいか、分析を継続して行っていく。</p>	<p>●継続して ICT 機器を活用した個別最適化された学びを行うために、教職員による児童理解と一人ひとりの学習状況の理解を継続・校内共有していく。</p> <p>●基礎的な学習の定着を目標に漢字や計算等の繰り返し学習を継続させていく。</p> <p>▼授業力向上のために教師間でお互いの授業を見合う時間を確保するなど学校の教育力向上に努める。</p>

## 【期末評価】

期末評価	
○ 成果と▽ 課題	● ▼ 次年度への方策等
<p>○教師間の授業観察や OJT を通して、教員の指導力向上につながるとともに、児童の学習意欲や学力向上につなげることができた。</p> <p>○デジタルドリルと紙のドリルを併用することで、1年間の復習を繰り返し取り組み、習熟度や理解度を深めることができた。また、デジタルドリルでは、各児童に応じて、苦手な学習内容に重点的に取り組むことができた。</p> <p>▽文や文章の読み取りが苦手な児童が見られる。</p> <p>▽各授業でのねらいや目標は達成するが、既習事項の積み重ねが難しい児童が見られる。</p>	<p>●教職員の授業観察や OJT を来年度も継続して行い、職員の指導力が向上できるようにする。</p> <p>▼児童の実態に合わせて授業や支援を行い、より学習意欲や学力が向上できるようにする。</p> <p>●デジタルドリルと紙のドリル（プリント）等を活用することで一定の成果が得られた。学校全体で来年度も継続する。</p> <p>●授業のユニバーサルデザイン化を目指したことで、児童の学習意欲を高め、学力向上に努めることができた。来年度も継続する。</p> <p>▼文や文章の読み取りや積み重ねができるよう、学校全体で共通の課題意識をもって取り組んだり、個に応じた指導や協働学習支援ツールの活用について検討したりする。</p>